

## 休務寺

〔錦小路通大宮の西にあり、浄土宗西山派。開基は貢空景林上人、寛永十年の草創なり〕本尊阿弥陀仏〔八幡宮の神作、立像三尺五寸許。四十八願巡の第二番なり〕

## 聖徳寺

〔綾小路通大宮の西にあり、浄土宗鎮西派。古は真言宗、今宗の祖貞安上人〕

本尊阿弥陀仏 〔聖徳太子の作、立像三尺許。四十八願巡の第一番なり〕

聖徳太子四十二歳尊像 〔御自作、長一尺余、倚子に寄て香炉を持給ふ。抑当寺は太子六角堂草創まします時、良材を聚

給ふ作事場所なり。即仏寺となして御自作の像を安置す。靈驗古今を新にして、病患を祈るに感応速なり〕

## 壬生鰐口鑪

〔壬生寺前編に見へたり。例年三月大念仏の法会に、堂前に掲る鑪名器にして世の知る所なり。磧礫

集云、壬生地蔵堂暮春大念仏の時鳴す鰐口は、東山殿の御寄附なり、黄金を多く加へられたれば其響他に異なり、参詣の人此音を聞ば物憂を忘れて、随喜のこゝろを催すと云へり〕

物いはでみなすむ事に壬生念仏

江戸立

吟

壬生忠岑硯 〔壬生寺にあり。石の色紫にして硯の縁の傍に忠岑の文字あり。中頃当寺の北圃の中より掘出す〕

一夜天神

〔壬生寺の門前民家の間にあり、北野一夜松の霊を勧請しけるなり〕

月輪寺

〔壬生寺の東三町許にあり、浄土宗知恩院ちおんゐんに属す。古へは月輪兼実公かねざねの別荘にして、後寺となる。寺記紛失

す。中興は唱臨和尚しやうりんなり〕

本尊阿弥陀仏 〔慈覚大師じかくの作、立像一尺五寸許〕法然上人像 〔兼実公かねざねの作、坐像一尺五寸許〕兼実公影 〔御自作なり〕

帰命院

〔同所帰命院きみやうゐん町にあり、浄土宗知恩院ちおんゐんに属す。開基は雄蓮社ゆうれん文誉上人もんよ、慶長年中の草創なり〕本尊阿弥陀仏

〔運慶うんけいの作。当院より小兒五香湯を出す、薬力いちじるくして、帰命の名に寄る歟、世に名高し〕

中堂寺

〔松原通大宮の西二町許にあり、浄土宗西山派。古へは天台宗、慈覚大師じかくの開基なりとぞ〕本尊阿弥陀仏

〔慈覚じかくの作、立像三尺許。初は叡山中堂えいざんに安置しけるなり〕

長円寺

〔同所中堂寺の西に隣る、浄土宗百万遍に属す。開基は大誉清嚴和尚たいよせいがん、慶長十三年の草創なり〕本尊阿弥陀

仏 〔慈覚の作、立像三尺許〕

観音堂くわんおんだう〔本堂の北にあり。本尊観世音あみしんは恵心僧都えしんそうどの作、立像三尺許。一条院御宇長徳四年の冬、痘瘡大に流行て児童

死する事限なし。こゝに藤將軍親衛とうのしやうぐんちかもりといふ人、惻隱のこゝろたへず、即叡嶽楞嚴院えいがくりやうごんらんの僧都恵心にこれを歎き給ひしかば、正観音を彫刻しあたへ給ふ。これを三七日があいだ禱しかば、忽疱瘡止り諸人安堵しける。それより年久しく叡山にありしが、天正の頃当寺大誉上人に清水寺観音の靈告ありて叡峯に登り此尊像を感得してこゝに安置す。洛陽観音めぐりの第廿四番とす〕

本因寺方丈ほんこくじ ほうちやう〔当寺の因前編に見へたり。方丈の額は妙法華院と隸に書して、水戸黄門光圀卿みとくわうもんみつくにの筆なり。此所は瑞

龍院殿りやうおんの寄附にして、障子等の画図は永徳えいとくの筆なり。此亭初は江州安土城にありしを、大和中納言秀秋卿ひであきの館にうつし、其後当寺にうつす〕

○人麿社ひとまろのやしろ〔方丈の北にあり、初は紀貫之きのつらゆきの勸請なり。俊成卿も亦尊信し給ひて、社を修補し給ふ。其後荒廢して一堆の塚のみ遺れり、これを人麿塚と号す。貞和元年当寺を鎌倉よりうつす時、足利尊氏公神祠あしかがたかうぢを再營し給ひ、和歌を詠ず〕

行水の柳に淀む根をとへばいつかむかしの丸の塚  
尊氏

○茶亭さてい〔方丈の奥にあり、古田織部ふるたおりべの好なり〕○雛形石灯籠ひながたいしとうろう〔方丈の庭にあり〕

○飯睡手洗鉢うた、ねのてうずばち〔同所にあり〕○駒繫松こまつなをまつ〔同所にあり、尊氏公駒を繫給ひしとぞ〕

○馬駟場うまかけば 〔大客殿の東、藪の中にあり。長四十間許、左右に封疆あり。尊氏公競馬ありし所なり〕

○夕顔ゆふがほ曼陀羅まんたら 〔日蓮上人ねんの筆、本圀寺第一の什宝とす。表具は蜀錦にして夕顔の浮文あり、尊氏公陣羽織の切なりと

ぞ〕○狗画ぬいのゑ 〔宋徽宋帝の筆なり〕○大黒堂だいこくどう 〔本堂の北にあり、大黒天立像二尺許。寺記曰、天正年中に老翁此像を持来

て買んといふ。其時の寺主日栖上人にっせ靈像なれば速に求む。老翁の曰、買は明日得べしと、其宿所をとへば翁紙筆を乞ふて一首の和歌を書し去にけり。其後再び来らず。故に菅神の御作と称す〕

遙ぐくと北野の松の下住居宿は律のかげの菅原

○亀井かめゐ 〔本堂の西にあり。上古は田面清水といふ〕○是より本圀寺塔頭ほんこくじの名蹟を記す。